

戦渦のマリア

Maria in Turmoil of War

Episode.1

鋼鉄の乙女

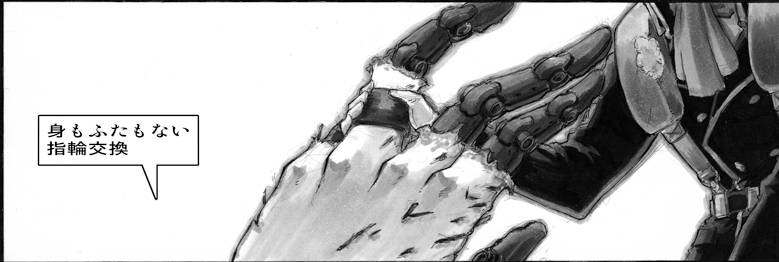


M.C.S
Master Card Systems



大破した新婦に
死にかけの新郎

錆びた鉄の指輪



身もふたもない
指輪交換



笑えるくらい
ムードが無いわ



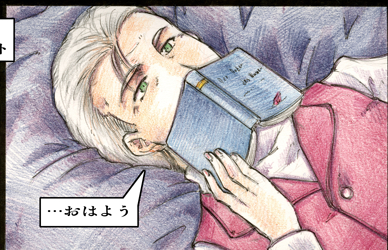
悪いがどうやらそいつは
鳥が銜えて行ったみたいだな

あいにく
手元に残っているのは
君への愛だけでね…

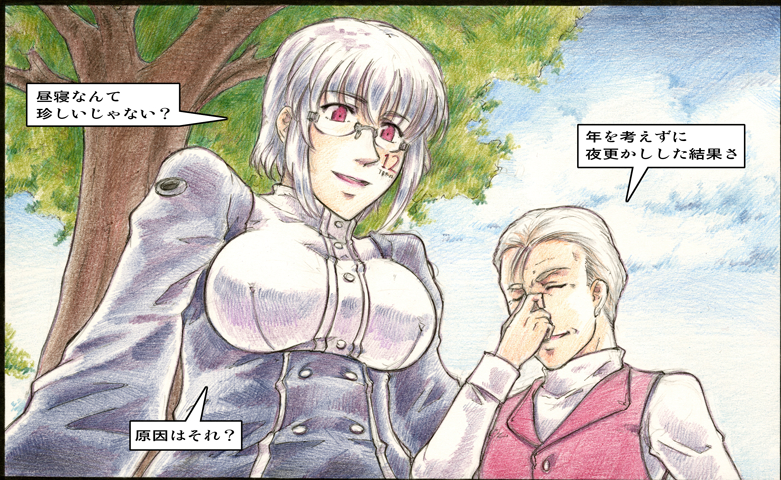


おはよう
エアハルト

ん…



…おはよう



昼寝なんて
珍しいじゃない？

年を考えずに
夜更かしした結果さ

原因はそれ？

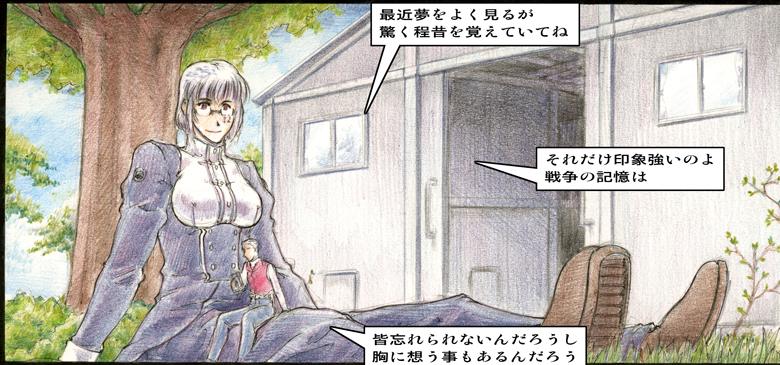


そういうことさ
去年のサンドラ殿に続き

今度はアドルフィーネが
書いた回顧録が出てね



俺達の事も詳しく
触れられていたよ



最近夢をよく見るが
驚く程昔を覚えていてね

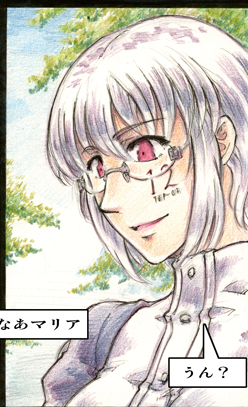
それだけ印象強いのも
戦争の記憶は

皆忘れられないんだろうし
胸に想う事もあるんだろう

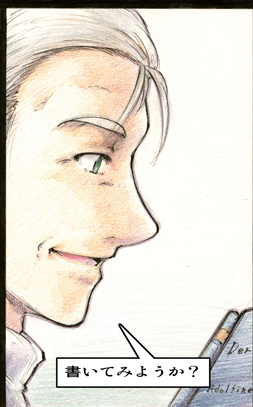
だから今になって
過去を書き始めたのかもな



なあマリア

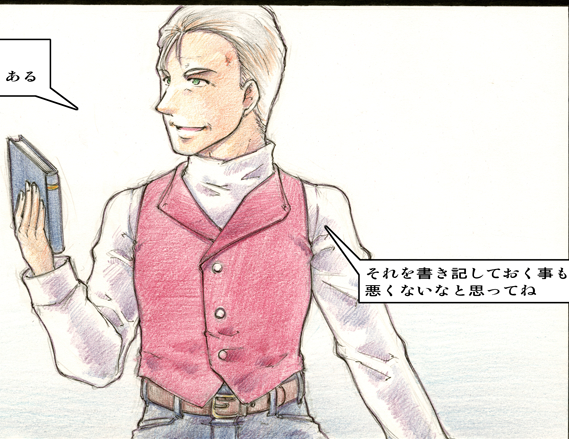


うん？

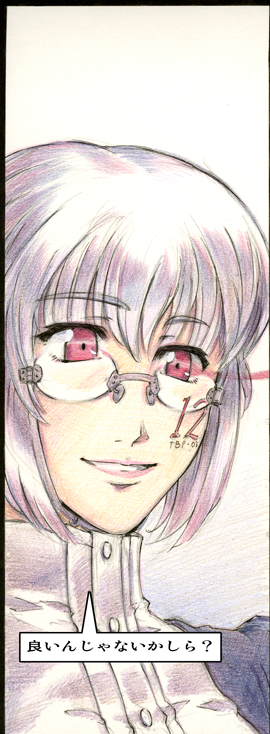


書いてみようか？

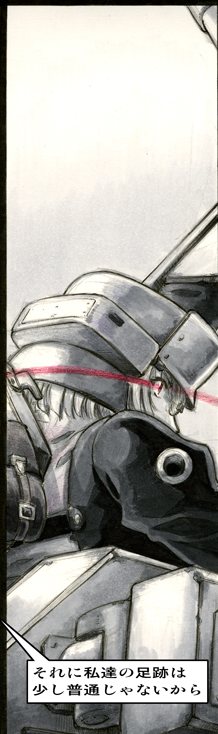
月しか見ていない
俺達が歩んだ足跡もある



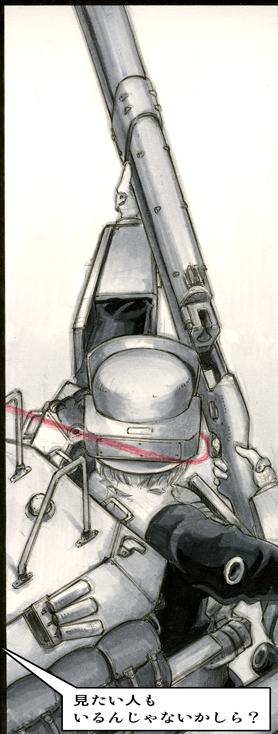
それを書き記しておく事も
悪くないなと思ってね



良いんじゃないかしら？



それに私達の足跡は
少し普通じゃないから



見たい人も
いるんじゃないかしら？

敵戦力はこちらの混乱に乗じて押し切ってくるつもりだろう

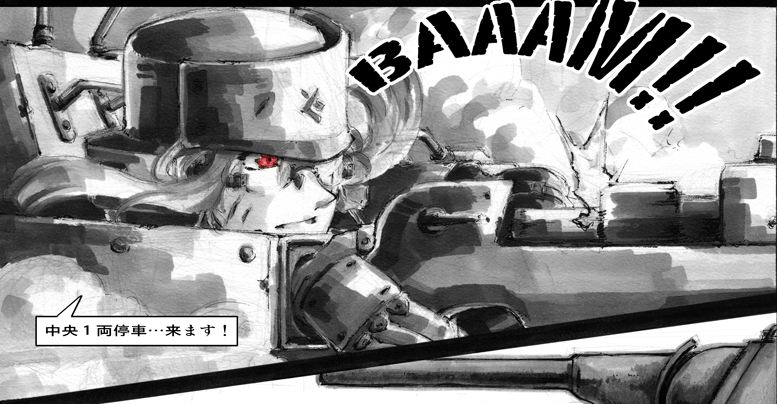


戦車隊は散開を！
時間稼ぎは

第12独立実験小隊が
引き受けます！



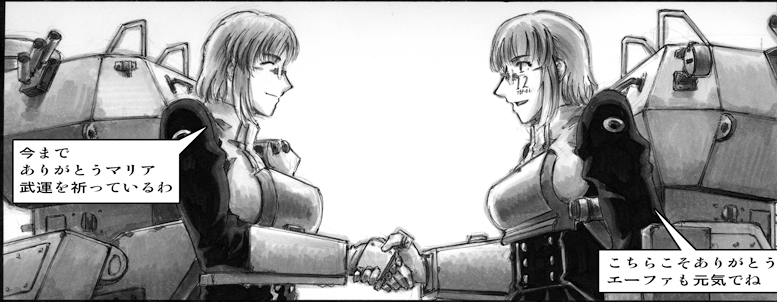
目標中央展開部隊先頭車両
この場に居る全てに
見せつけてやれ
君の力を！！



中央1両停車…来ます！

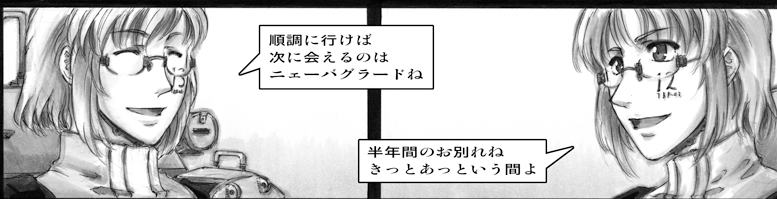


な…！？
何でこの距離で
当たるんだ！？



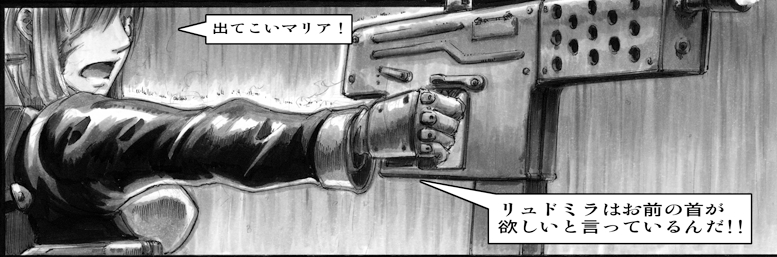
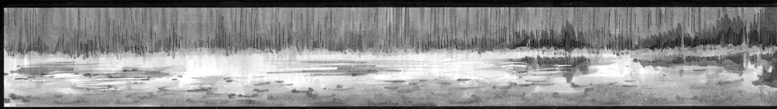
今まで
ありがとうマリア
武運を祈っているわ

こちらこそありがとう
エーファも元気でね



順調に行けば
次に会えるのは
ニューバグラードね

半年間のお別れね
きっとあつという間よ



出てこいマリア!

リュドミラはお前の首が
欲しいと言っているんだ!!



了解
こちらも撤退する!



BAM!!

タチアナ!

解ってる!



いずれまた
会うだろうが



その時には背を預け合う
戦友として出会うだろう




Fizzle...

頬に刻まれた12
…覚えておくわ




それは一体
どういう意…




これは書簡なの
しかもただの書簡じゃない


中身は世界を変えうる
内容と聞いているわ



しかもこの世界を一人で
変えてしまいそうな女
からの贈り物よ



送り主の名は
アレクサンドラ
ブラウダ連邦
屈指の大貴族



帝政打倒の立役者
ゾロトフ家の長女
アレクサンドラ・ゾロトフよ



はじめまして
アレクサンドラ少将

ヴァッシュリクス特使代表
中央情報軍
外部情報局 2 課室長



アドルフィーネ
キルヒアイゼン少佐です



虎穴に入らねば
虎児を得ず

貴官の胸の内
計りに参りました



歴史とは水だ



Whizz

大多数の者は歴史が揺れようと



その水面を漂う事しか出来ない

plop



そしていくら覗き込もうとも水の底は暗く見えづらい

深ければ深い程歴史の真実に近づく程その闇は濃くなる



水の中に居る我々もそこが最も深いのかは解らないものだ




そんな中で私はずっと水の底に潜り続けている

歴史の中心に居る者達と同じ深さに辿り着くためにな



今では私は最も深い所に居る一人だと思っていたのだが...


どうやら貴様は私より深い所に居る様だな？




そういえば…




アリョーシン殿は元気か？



アリョーシン？




私の周りに
その名の者は居ないわ




そうか
名前を変えていたな


そちらでは、ベネディクトと名乗っているはずだ。



嘘…でしょ？



残念だがそう言う事だ
君が届かない深みで
既に事は済んでいる



君の父上が
政権を取る前からな



君は自身の立場を
どう考えている？



能の有無を
持ち出さず

自分はただの
兵士であります



その腕で驕らず
一介の兵と言う

戦術の観点で言えば
理想の兵士だ…だが



戦略と言う大局にいる者達の
君に対する認識は
少し重いただの駒、だ

水底にいる者達からは
歴史の水面に浮く兵など
一つの数字でしかない



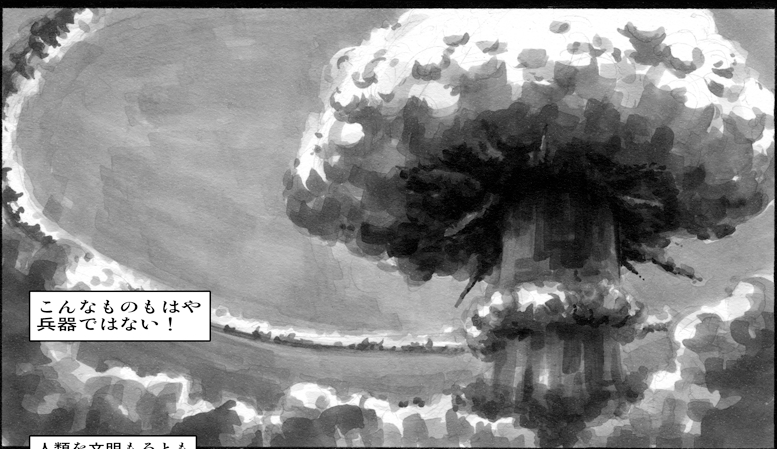
私とて駒の一つだが
水面に浮けない程に
重い駒ではある
そんな私が見るに…



君は水の中で光ると
そう思っている…
これは引き抜きよ

私には君とマリアが要る
水面で漂うだけでは
その力は余りにも惜しい





こんなものもはや兵器ではない！

人類を文明もろとも消し去りうる

悪夢…そのものよ！

シェワルナゼ！
答えろ！

何故あんな
おぞましい物を

あれは私なりの
慈悲だ

何故あんな物を使った!!

民が民を統治する
貴様の理想は
この比ではない
犠牲を生むだろう



早くヴァシユリガへ乗り込め!

ズラヴェーシイ!?



そのアハトアハトは私には重いお前以外の誰が使うんだ?

行けよ!
見送りは私の仕事だ

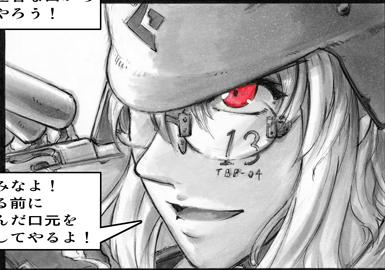


舐められたもののお前の様な廉価品が私の相手か!



騒がしいぜお人形廉価品じゃねえ次世代機と言え!

お人形だと? まずはその達者な口から引き裂いてやろう!



やってみなよ!
そうなる前にその歪んだ口元を叩き直してやるよ!

ごめんなさい
エアハルト...



気にするな
嫌な気分じゃない

BEEP

通信!?
回線開きます!



エアハルト君
生きているな!

本艦は君達の落下地点
の傍にいる
現在船体を最大俯角にして
待機中だ

トルストイ提督!?

大破した艦だ

時間が無い!
黙って聞きたまえ

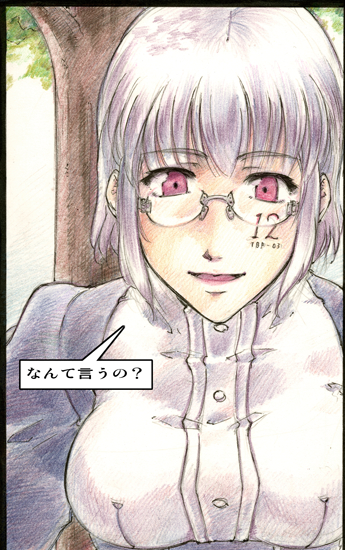
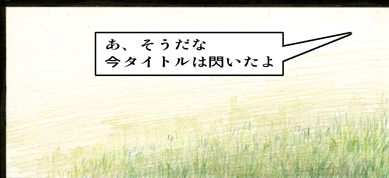


上手く行けば
甲板で受け止め
られるかもしれん

遠慮は要らん

構わずに
突っ込んで来たまえ!







12
789-09


これは、一人の男を愛した戦車と
一人の戦車を愛した男の物語

Welcome to our life story




M.C.S

Master Card Systems

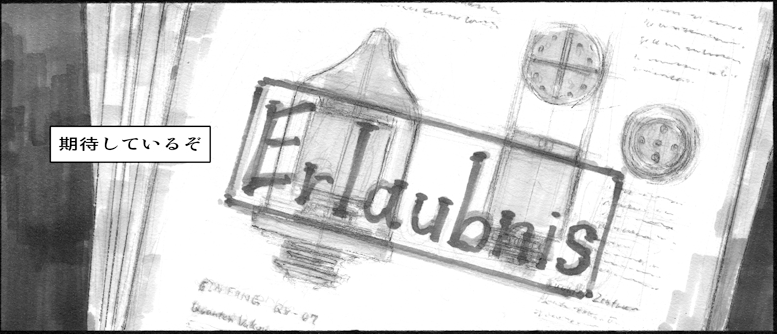


ブラージュス
よくやってくれた

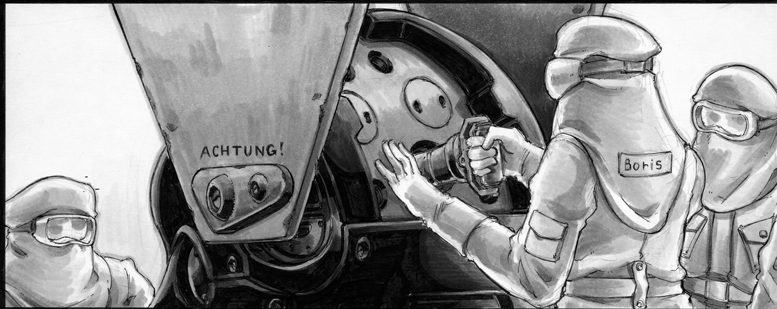


現時刻をもって
カンフメーチェン計画を
承認する

本計画の全権は
君に託そう



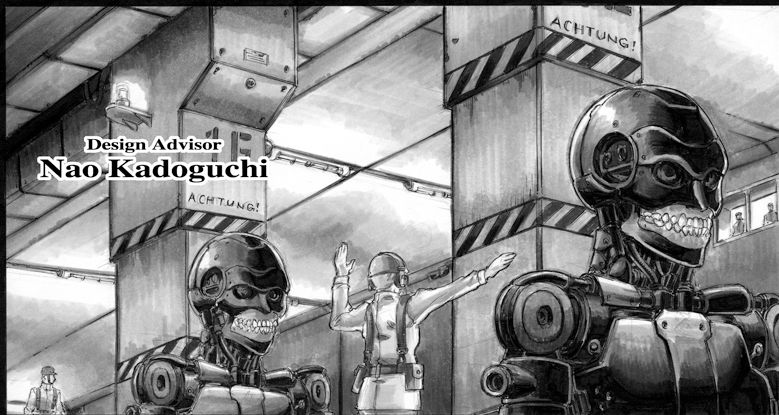
期待しているぞ



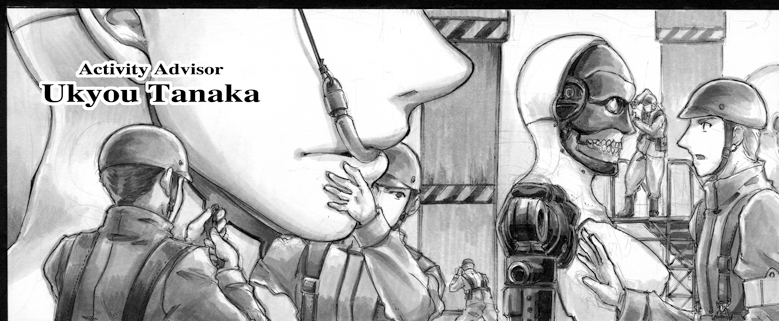
Presented by
Master Card Systems



Artist
ACE-kow



Design Advisor
Nao-Kadoguchi

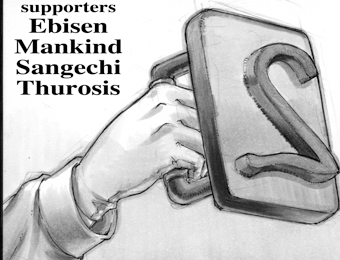


Activity Advisor
Ukyou Tanaka

Special cooperation
GUN GIRL MAGAZINE



supporters
Ebisen
Mankind
Sangechi
Thurosis



Ginkitsune
Kakumeibu
Lutine
Sui


12
TBP-03

Maid
Kyoma
hellwolf
Kuroe Kiyo



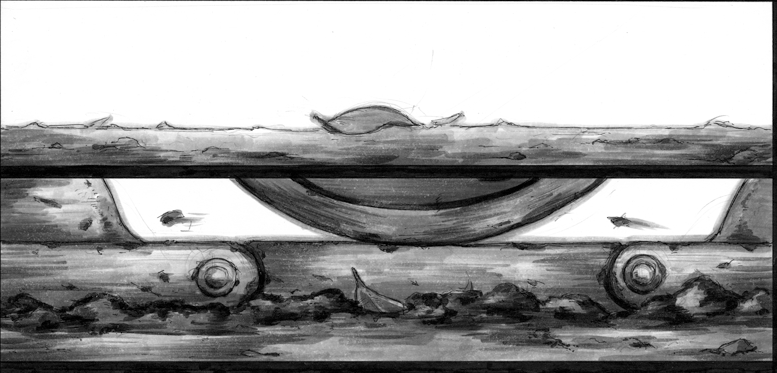


Chapter.01
鋼鉄の乙女




おい、知ってるか？

この森には不吉な
伝承があるんだよ




迷いの森だろ？
今の俺達には
好都合じゃないか




ヴァッシュ共が
迷っている内に
安心して移動できる

確かにな

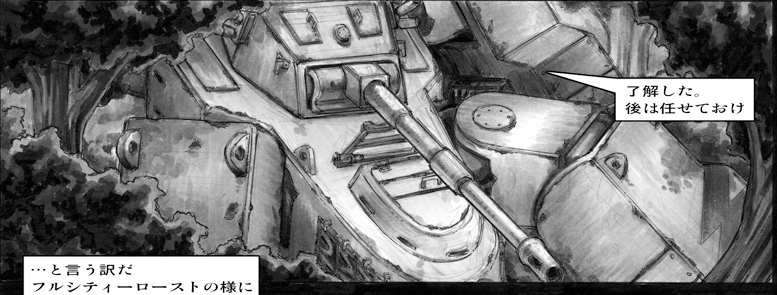


こちらオットー班
敵戦車隊7両を捕捉

ポイントE3を通過
B6に向かってる




通過地点の待ち伏せは
エアハルト隊が最寄りだ




了解した。
後は任せておけ


…と言う訳だ
フルシティーローストの様に
火薬で深煎りにしてやろう



じゃじゃ馬が
暴れたがって
唸ってますよ！



ハインツ、クラウス
ブフェルトは？



こちらの馬も
いつでもいける

そういや
酒が手に入ったんだ

おいマジかよ？

お前何処でそんなもん…

撤退のどさくさに
民家からくすねたのさ

相変わらず手癖悪いな

何だいらないのか？

そうは言っていないぜ

他の奴には言うなよ？

安心しろよ

分け前減っちゃ
困るもんな

そう言うこった

待ちきれねえな！

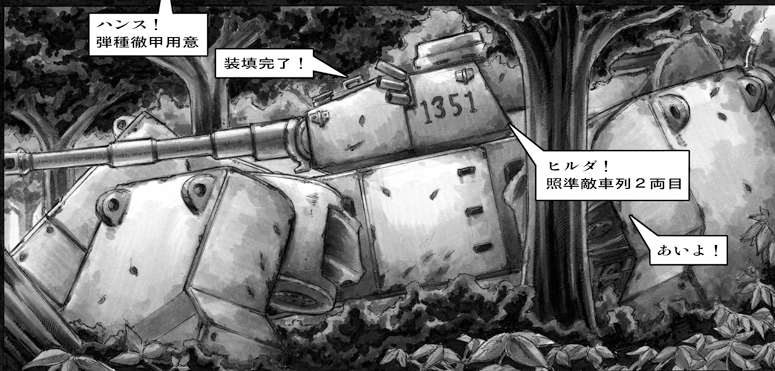
全くだ！

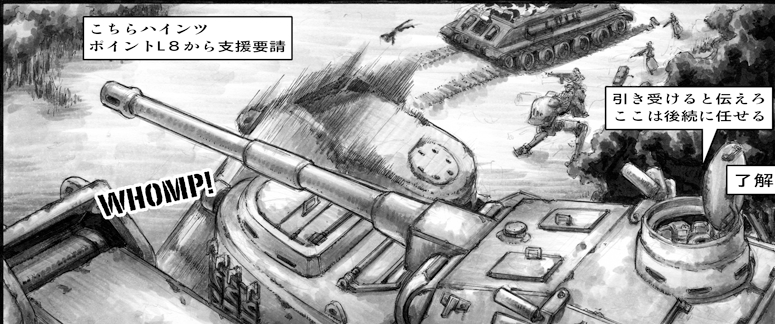
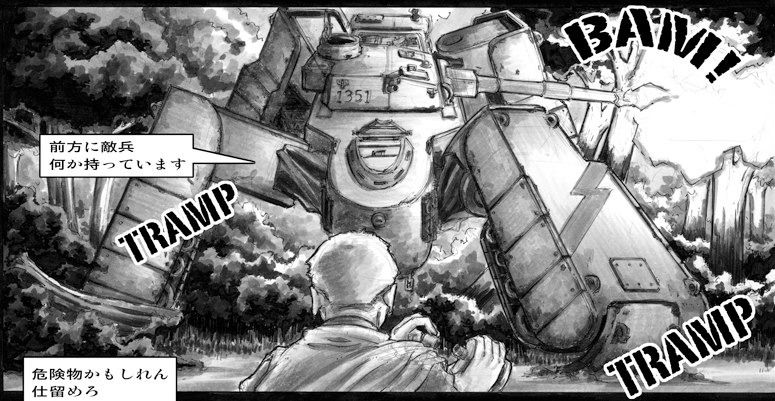
FLASH!

ぐっ…！？

うわ！？

BOOOOOO!!!







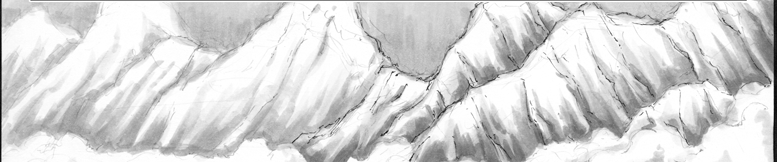
今から約半世紀前
私は戦場に居た
ヴァシュリクス共和国
所属の戦車兵として
日々戦闘に明け暮れていた

各機俺に続け
次の狩り場に向かう

我が祖国ヴァシュリクス共和国が引き金となったこの一連の戦争の根は深く
400年前に勃発した西方覇権戦争と言う大陸諸国を巻き込んだ大戦にまで遡る事となる



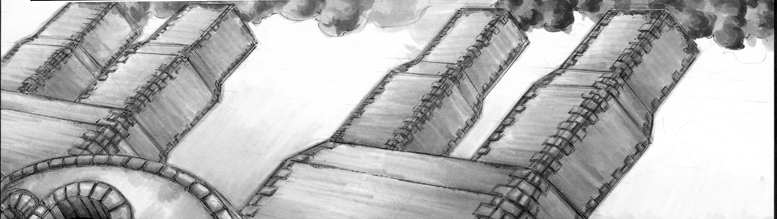
その戦渦により国を失い追われた難民達の一部が踏破できずに空白地帯であった
ヴァシュリック山脈を越え身を寄せた事が我が国の勃興の起源であり多民族からなる難民の
寄せ集めと我々の祖先は虐げられ祖国は敗北者の掃き溜めと呼ばれた



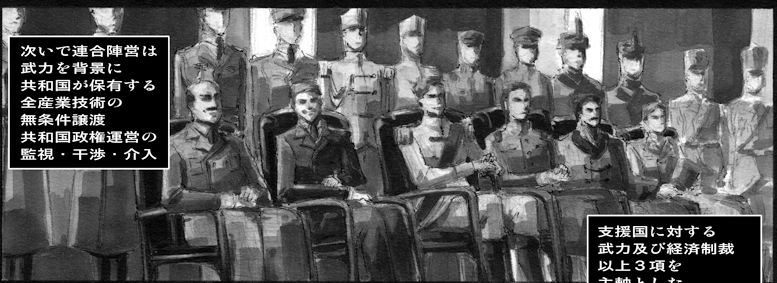
しかし難民の中には体制の変化により国を逃れた数多くの有能な知識階級が混ざっていた
彼らは各民族と各々が持つ優れた知識を交流させた末に錬金術を親とし科学を生み出すに至った



ヴァシュリック山脈の過酷な環境とその出自により吹き荒れる周辺社会からの差別と外圧
その逆境が目覚ましい技術発展の原動力となり遂に科学は産業の機械化に結びついた
諸国に媚び諂い始められた加工貿易は共和国に他国が無視できない程の国力をもたらした




この貿易により得た豊かな国力により我々は経済と言う新たな力で台頭し始めた
しかしこの貿易は近隣国家の産業の衰退を招き周辺国は各々の産業保護の名のもとに
「近隣諸国連合」を発足し我が国への資源と燃料の輸出を大きく制限し共和国は再び窮地に陥った




次いで連合陣営は
武力を背景に
共和国が保有する
全産業技術の
無条件譲渡
共和国政権運営の
監視・干渉・介入

支援国に対する
武力及び経済制裁
以上3項を
主軸とした
「連合間貿易法」
を一方向的に通告した



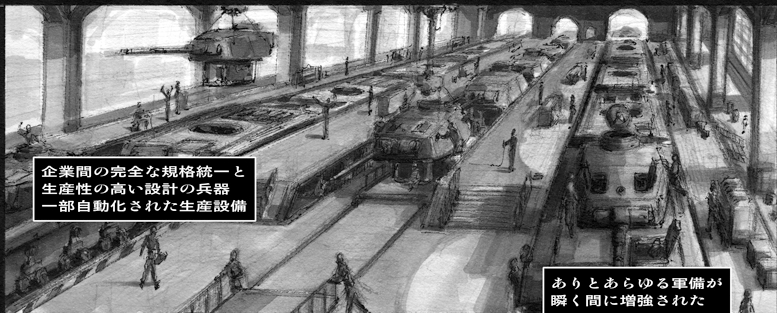
時を同じくして
共和国内部では
国家生存権確立を掲げる
急進派政党
「ツヴァイホルン」が
民衆の圧倒的支持に
よって政権を掌握した

ツヴァイホルン党首
ツェーザルは
その支持率を武器に
「有事委任法」を採択
共和国の一党独裁体制
を確固たるものとし
自身を総統と呼称した



その後
連合の軍事力に対抗すべく
反連合派国家からの
水面下の支援と
持ち前の工業力と科学力を
背景に軍事力の拡大へと
舵を切った

共和国と連合の軋轢は
その修復が不可能な程
決定的なものとなった



企業間の完全な規格統一と
生産性の高い設計の兵器
一部自動化された生産設備

ありとあらゆる軍備が
瞬く間に増強された



我々はおもはや
虐げられる側ではない
と言う強い自負心は

溢れ出る士気となって
体現された



そしていつもその中心で
民衆の熱狂を一身に受け
超然と構える総統の姿に

我々の輝ける
未来が見えた



1938年1月事態は急展開を迎える…我が国と唯一公式に互助協定を締結していた神聖バルト公国に対し近隣諸国連合は連合貿易法を用い武力制裁を開始した

Republic Of Waschlix
ヴァシュリクス共和国

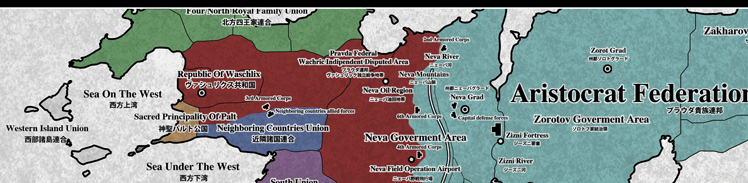
Neighboring Countries Union
近隣諸国連合

これに対し領土有事の相互防衛に基づき共和国は公国防衛の名の下に近隣諸国連合領に電撃的な侵攻を開始



西方大戦の勃発である

規模で圧倒する連合陣営はこの戦争を勝利できると確信していたが結果は全くの逆であった…ヴァシュリクスの機械化兵団と陸海空の統合戦略「雷」による素早い進撃に連合陣営は成す術が無く反撃を始めた時には連合領の7割を喪失し参加国の半数がヴァシュリクスの傀儡国家と成り果てた

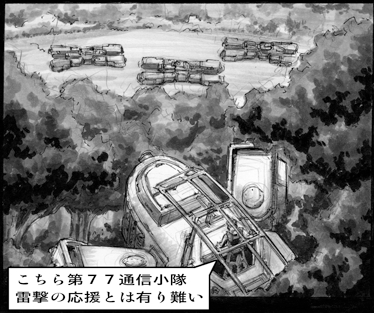


その後ヴァシュリクス共和国陣営に組み込まれた元連合陣営の首脳陣から近隣諸国連合発足の裏には隣接する大国フラウダ貴族連邦の奸計がある事を知った共和国首脳部は1941年連邦領への進軍を開始した。自らに仇成す者が居なくなるまで我々は戦う事を選んだ

この時私は第4装甲兵団「ホルツビーネン」に所属していた不可能を可能にすると唄われた陸軍最強の兵団である



その中でも精鋭と名高い特殊戦車運用部隊「独立多脚戦車大隊」で私は第135多脚戦車小隊を率いていた



こちら第77通信小隊
雷撃の応援とは有り難い



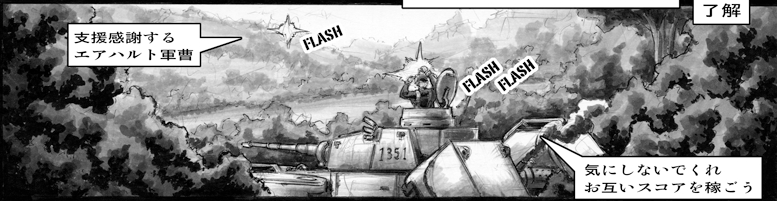
敵部隊はL8を通過後N13に向かっている



後10分弱で攻撃地点へ差しかかる

先発隊と共にこれを仕留めてくれ

了解



支援感謝する
エアハルト軍曹

気にしないでくれ
お互いスコアを稼ごう



こちらハイツ機
配置完了!

クラウド機
いつでもいけるぞ



さあ、狩りの時間だ

ヴァッシュリクス共和国陸軍 第4装甲兵团ホルツビーネン所属
独立多脚戦車大隊 第135小隊隊長 エアハルト・ハイデッカー軍曹
それが「雷撃」の異名を知られた私の当時の肩書さだ

事の契機はいつも
思いもよらぬ程
突然にやって来ると
聞いた事があったが
私も例外ではなかった



それはある日
思いもよらぬ差出人からの
一通の手紙から始まった



そりゃうちのボスだ
呼んでやるから待ってな



ボスお客だよ！
手紙だってさ！



ヒルダ
口が悪いぞ

癖ってのは
直んねえの！



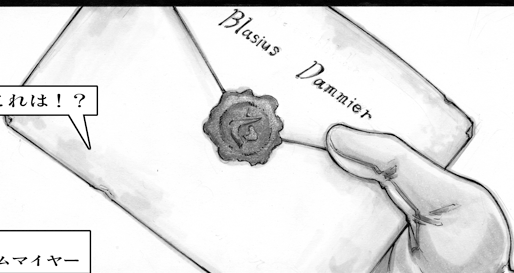
ありがとう
確かに受領した



一体誰だ？

先週家族から
届いてましたよね？

おい、これは!?



差出人
ブラーシウス・ダムマイヤー

ブラージウス大佐からだぞ！？

ええっ！？

軍曹これは…

お前何した？

何もしてないぞ！
一体何なんだ…

ブラージウス大佐は独立多脚戦車大隊の
設立者兼最高司令官である軍の重鎮だ

仔細の説明は無く
日時と場所の指定
ただそれだけの内容

私の様な一兵士とはそもそも接点が無い…
しかし何度見返しても手紙は私宛だった
中身は簡素な文面の召集令状であり

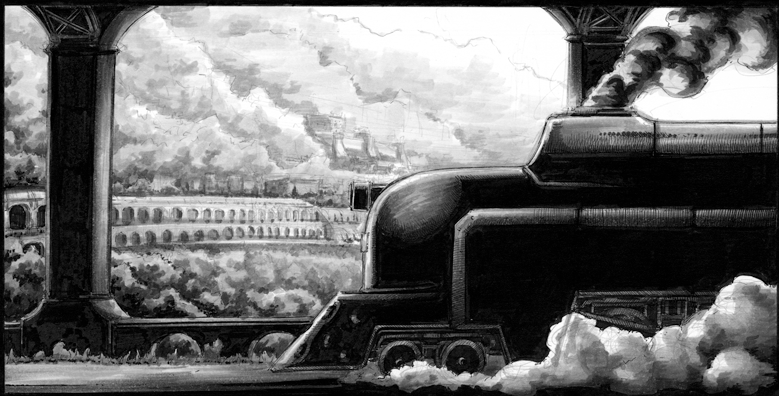
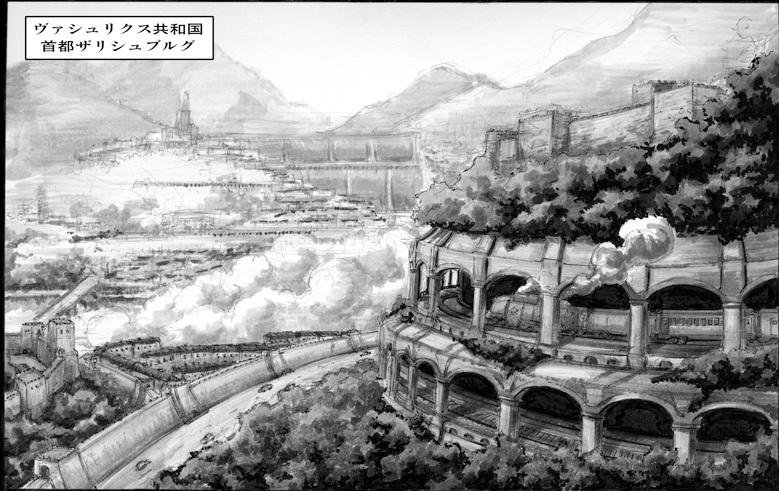
しかし重要事項の
赤い文字がその
簡素さとは裏腹に
その重要性を
物語っていた

数日後補充人員の到着を待って私は隊長を辞し隊を離れた

これにより副隊長のクラウスが隊を引き継ぎ私の機体はアヒムが戦車長を務める事となった

そして私は向かった。手紙にあった招集場所に

ヴァシュリクス共和国
首都ザリシュブルグ





第2 防衛区駅



私が駅から出ると
既に迎えが来ていた



汽車に遅延があつてな
遅れてすまない

とんでもありません
戦地からの御足労
恐れ入ります



実は頼みがあるんだが…

何でしょう？



まだ集合時間まで
だいぶ余裕がある

できれば
隣の地区にいる
家族に会いに
行きたいんだが…



残念ですが
今回は…

手厳しいな…

今回の招集は
準1級機密事項に
該当する事なのです



おい待ってくれ！
そんな文面
手紙には無かったぞ



私個人としては
お連れしたいのですが…

気にしないでくれ
事情が事情だ
仕方ないさ

車を2回乗り換え
迂回に迂回を
重ねる道中で
せいぜい聞けた
事と言えば…

新型車両の
戦車長に
選ばれたと言う
事だけだった。

仔細を聞こうにも
それ以外の一切が
口外は厳禁との
一点張りだった



まあ、
その対応を見るに
その車両が
どれほど重要な
代物なのかは



十分に
理解は出来たが



史跡シルト要塞で車は止まったのだが
そこにはゲートと多数の兵士の姿…



失礼、顔を拝見します

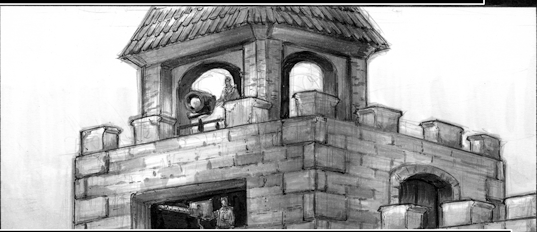
エアハルト軍曹を
お連れしました



これでいいかな？



程なく開いたゲートの奥には戦車まで待機しており相当に物々しい警備体制だった



監視塔を見る限り変わらないのは外見だけで内部は頑強なコンクリート製に改修してあった



これは！？

中世の要塞を偽装ために大改修を施した上でこれだけの警備体制を敷く程の重要施設
その正体はゲートをくぐって幾ばくもしないうちに解った



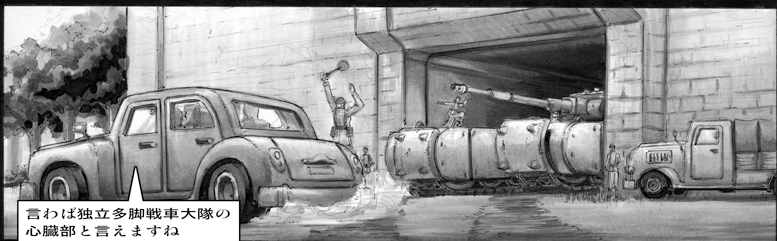
そこには所々に天高く煙突がそびえ立つ巨大な施設があった



多脚戦車の工場か!?

総合的な
製造開発施設です

大隊司令部もここにあります



言わば独立多脚戦車大隊の
心臓部と言えますね



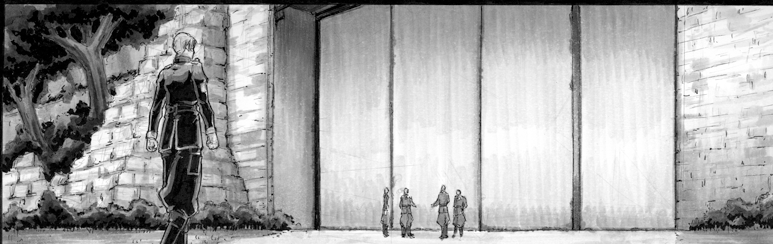
到着しました
あちらの格納庫前でお待ち下さい



あれか?



俺は本当に
多脚戦車に乗る
んだよな?



多脚戦車用としては妙に背の高い格納庫の前には既に数名の兵士が居た
服装からして彼らもまた私の様に招集された戦車兵達だった



失礼します



皆さんも招集を？

ここに居る全員が
そのようですね



初めましてエアハルト
ハイデッカー軍曹です

第4軍の雷撃！
活躍は聞いていますよ！



お会いできて光栄です
私はペンノ
サンダース軍曹です

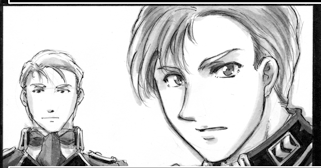


第3軍の霧
あのペンノ軍曹ですか！？

驚くべき事に招集された全員が各兵団から集められた最精鋭の戦車長だった。



後からも次々戦車長が集まる中で気になった事が一つあった
招集されたのは戦車長だけで操縦士も砲手も装填手も居なかった



この後すぐに解った事だが、戦車長以外は要らなかったのだ



諸君の活躍は聞いている
我が大隊も順調に
育ってきている様だな



遠路はるばる誠に苦勞だった
勞いの席でも用意したい所だが
その前に諸君に見せたい物がある
早速だが本題に入ろう



全員私に
付いてきたまえ

ゲートを開けろ

了解





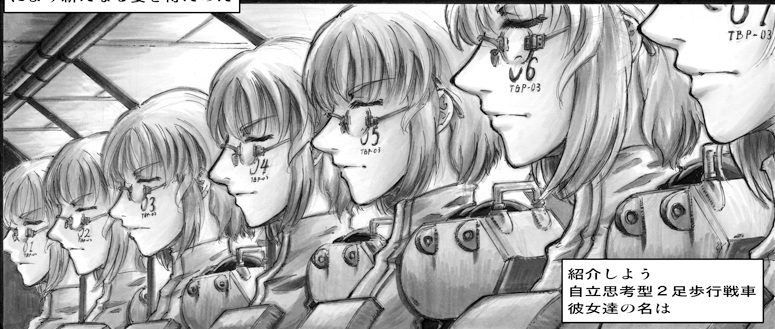
格納庫は洞窟の様に暗闇で包まれ肌寒くそして気配を感じた



諸君を招集したのはこの新型の多脚戦車に教官として搭乗してもらうためだ



我が国の多脚戦車は人工知能と次世代の機体開発により新たなる姿を得たのだ



紹介しよう
自立思考型2足歩行戦車
彼女達の名は



TBP-03 カンプメーチェン

彼女等は今後君たちの部下であると同時に搭乗機となる
有能ではあるが戦闘経験の無い彼女達を教え導く事が君たちの今後の任務だ
この成果が今後の開発を大きく左右する物になるゆえその手腕を存分に発揮して貰いたい！



期待しているぞ



これ何ですかね？

さあ…
何でしょうね？

皆が一様に啞然とした
目の前の巨大な女性が今後の
搭乗機だと言われれば
誰だってそうなるだろう

各々がこの困惑した思考を
落ち着かせる時間も無く
その後簡単な事前説明を受け
車両の割当が行われた

私は12号車の
担当になった

オハヨウゴザイマス教官
コレヨリ搭乗者ノ登録ヲ行イマス
搭乗者ノ名前ヲ教エテ下サイ

エアハルト・ハイデッガーだ
宜しく頼む

……搭乗者名登録完了、並ビニ声紋ヲ記録シマシタ
次ニ当機ノ固有機体名ヲ登録シテ下サイ

名前か…
待ってくれよ

そう言うのは
結構難しいんだ

………マリア





この身が果てるまで
教官と共に戦い抜く事を
ここに宣言します
宜しくお願いします！

これが妻との初対面だった
私の人生はこの時を境に
数奇な物へと変わって行った

戦場のマリア

Maria in Turmoil of War